ノーサイド

北原巌男

卒業生たちも香りを楽しんだ爽やかな梅の季節から、新たなチャレンジを始める皆さんを祝福する華やかな桜花が満開を迎えようとしています。

自衛隊でも、各地の部隊や学校で、真新しい制服に身を包んだ新人の皆さんの緊張した姿が微笑ましく映ります。真に良き社会人として国民の負託に応える自衛隊員として、日々成長して行っていただきたいと思います。

そして、さまざまな思い出を残して自衛隊生活に別れを告げ、新しい分野へと踏み出した元自衛隊員の皆さんも全国に沢山います。

ニューフェイスの自衛隊員、元自衛隊員の皆さん。それぞれの皆さんの頑張りと活躍に心から力いっぱいの声援を送ります。

そんな中、飛び込んで来たのが衝撃的なニュース。アナウンサーは、何度も繰り返し伝えています。

「2人は元自衛隊員。同じ部隊の同僚でした。2人は…」

遠くカンボジアで、あろうことか強盗殺人事件を起こしたのです。若い2人の元自衛隊員に突然殺害されたタクシーの運転手さんには、幼い子供たちや悲嘆にくれるご家族が残されました。皆さんの無念さや悲しみに思いを馳せるとき、限りない哀惜の念と憤りを抑えることが出来ません。

「自衛隊の教育は、いったいどうなっているんだ！」そんな声も上げたくなる、いたたまれない気持ちの皆さんも多いことと思います。

世界的に有名な世界遺産アンコールワットのあるカンボジアは、平成の時代に入った直後の平成4年（1992年）に、自衛隊が初めてPKO活動を行うため派遣された国です。

自衛隊の皆さんは、国づくりの基盤となる道路や橋の整備等に取り組んで来ました。その間、特記すべきことは、カンボジア国民の皆さんとの間に、決して壁を作ることなく、心と心を結ぶ強固な信頼関係を築き上げて来たことです。そんなカンボジアでの活動に従事した自衛隊員の中には、すでに元自衛隊員になっている方もあり、カンボジアからの痛ましいニュースに胸を痛めていることと思います。

元自衛隊員

その後も、自衛隊では、日本らしいカンボジア国軍のさまざまな能力構築支援策に精力的に取り組んで来ています。

さらには、国づくりは人づくりとの観点から、防衛大学校では、将来幹部要員となる留学生を受け入れて来ています。本年も1名の留学生が、5年間の頑張りを経て、3月17日、安倍内閣総理大臣や岩屋防衛大臣が見守る中、國分学校長から卒業証書を授与されました。卒業式当日の夕刻には、彼を支え励まし続けて来られたホストファミリーである日本のお父さん・お母さんからも温かい祝福を受けていました。感謝の気持ちを胸に、再会を期して母国へと巣立って行った彼は、きっと日本とカンボジアの皆さんを結ぶ力強い架け橋になってくれることでしょう。

そしてカンボジアには、2002年から同国のカンボジア地雷処理センターの教導チームと連携し、不発弾や地雷の回収・処理、カンボジアの処理要員や教官要員の育成そして地雷や不発弾の脅威から子供たちや住民を守るため、学校や村々を訪問して「危険回避教育」の実施等に懸命に頑張っている元自衛隊員の皆さんが、今もいるのです。

「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」の皆さんです。

「カンボジアでは、長年地雷・不発弾の処理が行われてきましたが、いまだに年間約110人の死傷者を出しています。カンボジア政府は、2025年までに人的被害をなくすという国家目標を掲げ、日々地雷・不発弾の回収・処理を行っています」（JMAS2016−2017活動報告）

現地での活動がすでに17年にも及んでいるJMASの皆さんの地道な活動の蓄積によって、こどもたちは安心して学校に通えるようになり、また農作物の耕作等を通じて生活が豊かになって来ているとの喜びの声も寄せられています。

元自衛隊員による凶悪事件が報じられる中、カンボジアの皆さんと心を一にして、一緒に頑張っている元自衛隊員の皆さんがいることを忘れることは出来ません。

北原　巌男
（きたはらいわお）
元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現（一社）日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事